

第4工場に導入したスプレータイプの液剤
専用ラインの包装工程



ジャパンメディック

液剤生産設備を増強

第3、4工場 受託量拡大に対応

医薬品製造のジャパンメディック（富山市横越、前田康博社長）は、第三、第四の各工場で殺菌やかゆみ止めなどの液剤の生産設備を増強した。受託生産の増加に対応するとともに、スプレータイプなど特色のある製品の設備を重点的に充実させることで、競争力の強化と一層の受注拡大につなげる。

県内では、医薬品製造の全面的な委受託が可能になった昨年四月の改正薬事法施行に合わせて、中堅の医薬品メーカーが相次いで新工場を建設するなど設備増強を進めてきた。業界各社の投資意欲は衰えておらず、活発な設備投資が続いている。昨年十月に新たに第

四工場を稼働させたジャパンメディックも今回、追加投資に踏み切った。第四工場にはスプレー

タイプの液剤専用ラインを導入し、のどの殺菌や洗浄に使う液剤の製造から充てん、包装までを自動化した。従来は兼用ラインで生産していたが、専用化で生産能力は三割増の年間三百五十万個にアップ。一連の工程を担

う人員も四人に半減し省人化を実現した。第三工場は、消炎鎮痛

やかゆみ止めの液剤用に横型容器充てん機を備える新ラインを増設した。塗りやすいよう塗布面が斜めになっているタイプの容器に充てんするラインで、既存ラインと合わせて二ライン体制に拡充。能力は従来の年間二

百五十万個を六百万個に引き上げた。ヤパンメディックは自社開発した商品を大手に提案し販売を委託する形の手からさらに大型商品の受託生産に力を入れており、受託を見込んでおり、設

り、今後は開発要員の増強も進めていく考え。